

一九九九年二月、ベルリン国際映画祭。上映は厳戒態勢の中で始まった。



遥かなるクルディスタン

イエス・ウスタオウル監督作品 JOURNEY TO THE SUN

製作:パブルーズ・ハシェミアン 監督・脚本:イエス・ウスタオウル 撮影:ヤケク・ベトリキ 音楽:ヴラコ・ステファノスキ
出演:ニユーロス・バズ、ナズミ・クルックス、ミズギン・カバザン 1999年/トルコ=ドイツ=オランダ合作/104分/カラー/ビスタサイズ
配給:若松プロダクション、シネマスコレ 配給協力:グア・バグアホ

1999年ベルリン国際映画祭 ベストヨーロッパフィルム賞&平和賞
2000年イスタンブール国際映画祭 最優秀作品賞&最優秀監督賞



1999年ベルリン国際映画祭 ベストヨーロッパフィルム賞&平和賞
2000年イスタンブール国際映画祭 最優秀作品賞&最優秀監督賞

遙かなるクルディスタン

何という美しき、激しき、哀しき。
ここには、私たちが失ってしまった
狂おしいまでの生命の熱気がある。

加藤登紀子

クルド人へのいわれなき差別、抑圧、偏見を、トルコの内側から描いた問題作。
民族対立による暴動を懸念するドイツ当局の厳戒下、映画は熱気に包まれスタートした。

1999年2月ベルリン国際映画祭。「遙かなるクルディスタン」の上映当日、会場は緊張した空気に包まれていた。折しもその前日、トルコ特殊部隊がPKK(クルディスタン労働者党)のオジャラン議長をケニアのナイロビで逮捕。ヨーロッパを中心に、クルド人による抗議行動が広がっていた。ドイツはトルコ移民が多く、トルコの現実を告発するこの映画に反対する勢力の過激な行動が予想されたため、会場は厳戒態勢が敷かれた。映画は予定通り上映され、超満員の観客の惜しみない拍手はいつまでも会場内に鳴り響いた。

それは、忘れられた人々の、忘れられない魂の旅。

冷戦終結後、世界中で噴き出した民族対立の火種。旧ユーゴスラビア、東ティモール、コンゴ、そしてアフガニスタン。トルコもまた、大きな民族問題を抱えている。トルコ国内では、約1200万人のクルド人が生活しているといわれる。しかし10年前までクルド人は、トルコ国内でクルド語を話すことさえ許されなかった。抑圧されたクルド人の現実。その一方、トルコ国内で住民が強制退去させられ廃墟となった村は3000以上にもなり、村人の多くは大都市へと移動。差別と偏見を経験しながら、見知らぬ都会に生きる方法を模索していった。こうして大都市イスタンブールは民族抑圧と地方出身者の大量流入という大きな問題をはらみ、人口1500万人の多くがスラムに住むという構造的な問題を抱え込んでいる。

映画は、矛盾と混沌に包まれた大都会の片隅に生きる2人の青年を通して、トルコの“いま”を痛切に描いていく。イノセントな友情、素朴な愛、いわれなき弾圧、親友の死、そして旅立ち。政治的に無垢で素朴な青年が次第に社会の現実を知り成長していく姿に、トルコの未来への希望を重ね合わせて提示していく。そこに描かれる真摯な世界は、私たちの記憶の奥底に深く刻まれるに違いない。

監督は1994年「軌跡」(イスタンブール映画祭/トルコ最優秀作品賞)で長編映画監督としてデビューしたイエシム・ウスタオウル。トルコを代表する女性監督として世界的に注目を集めている。撮影は名匠クシシュトフ・キエシロフスキの撮影監督として評価の高いヤケク・ペトリキ。ドキュメンタリータッチの瑞々しい映像が、主人公の哀しみと希望を鮮やかに映し出していく。1999年ベルリン国際映画祭で、ベストヨーロッパフィルム賞・平和賞をダブル受賞した。

その視線の先に映るのは、自由と希望の光。
痛みを抱えて生きていく人々にとって、生きることは戦いだった。

メフメットは、より良い生活を夢見てトルコ西部の町からイスタンブールにやって来た。クルド人ベルザンは広場でミュージックテープを売って生計を立てている。ある日メフメットは、サッカーに熱狂した暴徒に追われベルザンに助けられる。都会の片隅に生きる2人は、お互いの胸の内を語り合ううちに固い友情で結ばれていく。

ある晩バスに乗っていたメフメットは、クルド人過激派と間違われ、不当逮捕されてしまう。以前から濃い肌の色ゆえクルド人と間違われることがあったメフメットに、厳しい尋問が待っていた。1週間後戻った彼の部屋の入り口には、クルド人を示す赤い×印が落書きされていた。もめごとを恐れるルームメイトから部屋を追い出され、職も失ってしまうメフメット。ベルザンの助けによってスラム街に新たな職と住居を得た矢先、今度はベルザンがクルド人弾圧に反対するデモに参加し逮捕されてしまう・・・。



国を持たない民族“クルド人”

クルド人の総人口は2000万人とも3000万人ともいわれ、トルコ、イラン、イラク、シリアなどにまたがる山岳地帯に住んでいる。これらの国と大国のその時々々の思惑に翻弄されながら、クルド人同士もまた対立してきた。トルコ国内では厳しい同化政策がとられ、放送や学校でのクルド語の使用は禁止されてきた。

製作：バフルーズ・ハシェミアン
監督・脚本：イエシム・ウスタオウル
撮影：ヤケク・ペトリキ
音楽：ウラコ・ステファノフスキ
美術：ナタリ・イレレス
出演：ニューロス・バズ
ナスミ・クルックス
ミスギン・カバザン
配給：若松プロダクション、シネマスコール
配給協力：グアバ・グアボ
1999年/トルコ=ドイツ=オランダ合作
109分/カラー/ビスタサイズ

11月16日(土)より衝撃のロードショー

11/16(土)~11/22(金)	12:15	2:20	4:25	6:30	※11/30(土)と12/1(日)はP.M.6:30の回のみ休映
11/23(土)~	10:10	12:15	2:20	4:25	6:30

※チケットぴあ・観音プレイガイド・阪神プレイガイドなどで好評発売中!

<特別鑑賞券>1,400円(税込) ※サービスデー
月曜・男性1,000円・火曜・会員1,000円
水曜・女性1,000円、金曜アペ・2,600円
<当日>一般1,700円/大学生1,400円/高・中・小・シニア1,000円

11月23日(土)12:15
回終了後、中川喜与志氏
([「クルド人とクルディ
スタン」の著者)の講演
があります。

大阪市淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F
阪急・十三駅西口より徒歩3分

第七芸術劇場

☎06-6302-2073